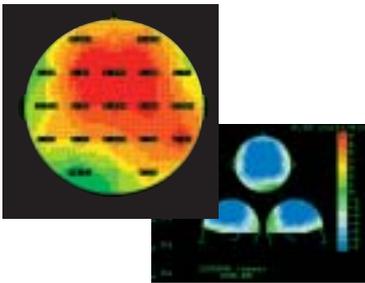


日本語音声学

筑波大学文芸・言語学系教授 城生 佰太郎 著

今日、音声学はパソコンの普及と比較的安価で扱いやすいソフトの供給によって、ますますその奥行きと幅を広げつつある。

そのような、音声学を取り巻く研究環境の変化に照らして、これに見合った概説書として本書では、可能な限りの実験観察を行い、その元データも掲載することによって、音声学が単なる主観的記述に基づく技術論ではなく、客観的なデータに裏打ちされた、れっきとした独立科学であることを解説。音声学を学ぶ学生、研究者を対象とした最適の書である。



科学としての音声学が目指す先端研究の一端として、事象関連電位を用いた脳波実験に基づくアクセントの認知に関する所見などについても言及。

母語である日本語を中心に捉えた、今日的レベルの音声学の概説書。

本書における音声表記は、原則として最新版の1993年改訂・1996年修正版による国際音声記号を採用。

◆ 内 容 ◆

■ 序章 音声言語の重要性

音声言語と文字言語 / 日本における音声教育 / 音声言語の特質 / 音声言語を捉える視点 / 外国語教授法への応用

■ 第1章 音声学概説

音声学の対象と分野 / 音声学の研究方法 / 調音音声学 (音声器官、喉頭、舌、口蓋、歯および歯茎、口唇、鼻腔) / 音響音声学 (音波、音響スペクトル、サウンドスペクトログラム) / 聴覚音声学 (身近になった脳波研究、脳波の読み方)

■ 第2章 日本語の母音

分類基準 (調音音声学および生理音声学的基準、音響音声学的基準、聴覚音声学的基準) / 母音の付帯的性質 (無声化、鼻音化、中舌化)

■ 第3章 日本語の子音

分類基準 (調音点と調音体、調音様式、音源) / 各論 (両唇鼻音、両唇破裂音、両唇摩擦音、両唇接近音、歯音および歯茎破裂音、歯音および歯茎摩擦音、歯音および歯茎摩擦音、歯茎はじき音、歯音および歯茎鼻音、歯茎硬口蓋摩擦音、歯茎硬口蓋摩擦音、硬口蓋摩擦音、硬口蓋鼻音、硬口蓋接近音、軟口蓋破裂音、軟口蓋鼻音、口蓋垂鼻音、声門破裂音、声門摩擦音)

■ 第4章 日本語のアクセント

分類基準 / アクセントの種類 (音質差、段階差、頂点の特徴) / アクセントの機能 (示差的機能、境界表示機能) / 記述法 (伝統的なアクセント表記法、辞書形と句音調などによる変調、downstep、音声学的アクセント、アクセントの平板化はなぜ起こるのか)

定価：本体3,000円＋税
AB3003
A5判 200頁

このCD-ROMには、『日本語音声科学』のうち、特に一般読者にはわかりにくいと思われる実験データを扱った図版を中心に、そのもととなっている音響事実と脳波測定データとを、音声による解説を交えながら平易に示してある。

従来、文献だけではわかりにくいとされてきた実験音声学的研究成果の一斑を、原データとともに公表することによって、斯学に造詣の深い方々には自らの手によって本文の裏づけをすることが、また、初学者の方々にはデータ処理の方法と音の出る本としての側面とを享受することができるものと考えている。

筑波大学文芸・言語学系教授 城生百太郎

日本語音声科学

◆ データリスト ◆

P(ページ)・図・表は城生百太郎著『日本語音声科学』に対応

一 脳 波

- P.56 図1-16 脳電位トポグラフィ
- P.176 図4-11 「pa」の脳電位トポグラフィ
- P.177 図4-12 「pa」の脳電位トポグラフィ
- P.174 表4-6 単音節におけるERP成分ピーク潜時
- P.175 表4-7 2音節におけるERP成分ピーク潜時
- P.178 表4-8 4音節におけるERP成分ピーク潜時

一 音 声

■第一章 音声学概説

- P.37 図1-7 波形形状 (a) ~ (c)

■第二章 日本語の母音

1. 分類基準

- P.65 図2-3 日本語における典型的な母音
- P.71 図2-6 日本語5母音のスペクトログラム
- P.73 図2-8 「イ」のF0
- P.74 図2-9 「エ」のF0
- 図2-10 「ア」のF0
- P.75 図2-11 「オ」のF0
- 図2-12 「ウ」のF0

2. 母音の付帯的性質

- P.81 「カツ吉」[格式]
- P.82 図2-14 「汽車」における母音[i]の無声化の有無
- P.83 図2-15 「明日」と「秋から」
- P.84 図2-16 無声化とササヤキの「汽車」
- P.85 図2-17 無声化とササヤキの「使者」
- P.86 図2-18 口音と鼻音の違い
- P.87 図2-19 前舌の[i]と中舌の[i]
- 図2-20 後舌の[o]と中舌の[ø]
- P.88 図2-21 中舌化した[sü]のF0

■第三章 日本語の子音

1. 分類基準

- P.96 図3-2 東京方言の代表的な子音
- P.99~100 図3-5 破裂音、破擦音、摩擦音の違い
- P.101 図3-6 破裂音、破擦音、摩擦音の引き伸ばし「アツツ」[アツツ]
- P.102 図3-7 「アツ」[アツ]と「アタ」
- 図3-8 「アツサ」[アツサ]と「アサ」
- P.104 「イロ」[イロ]「ウル」
- P.106 「カシャ」
- P.107 図3-11 有声音と無声音の特徴

2. 各論

- P.115 「ミ」[ミ]「マ」[マ]「モ」[モ]
- 「ミエ」[ミエ]「ミヤ」[ミヤ]「ミヨ」[ミヨ]「ミュ」[ミュ]

- P.116 「ビ」[ビ]「バ」[バ]「ボ」[ボ]「ブ」[ブ]
- 「ピエ」[ピエ]「ピャ」[ピャ]「ピョ」[ピョ]「ピュ」[ピュ]
- 「パン」[パン]「コンパ」[コンパ]
- 「ビ」[ビ]「バ」[バ]「ボ」[ボ]「ブ」[ブ]
- 「ピエ」[ピエ]「ピャ」[ピャ]「ピョ」[ピョ]「ピュ」[ピュ]
- 「初な」[初な]「危ない」[危ない]「鈍い」[鈍い]
- P.117 「フィ」[フィ]「フェ」[フェ]「ファ」[ファ]「フォ」[フォ]「フ」[フ]
- 「フィエ」[フィエ]「フィア」[フィア]「フィヤ」[フィヤ]「フィオ」[フィオ]「フィウ」[フィウ]「フィユ」[フィユ]
- なお、一部の慣用を除き、以下()のヤ行表記は省く。
- 「ウイ」[ウイ]「ウエ」[ウエ]「ウオ」[ウオ]「ウイェ」[ウイェ]「ウイア」[ウイア]「ウイオ」[ウイオ]「ウイウ」[ウイウ]
- P.118 「ティ」[ティ]「テ」[テ]「タ」[タ]「ト」[ト]「トゥ」[トゥ]
- 「ティエ」[ティエ]「ティア」[ティア]「ティオ」[ティオ]「ティユ」[ティユ]
- P.119 「ディ」[ディ]「デア」[デア]「デオ」[デオ]「デュ」[デュ]
- 「ディエ」[ディエ]「ディア」[ディア]「ディオ」[ディオ]「ディウ」[ディウ]「ツイ」[ツイ]「ツエ」[ツエ]「ツァ」[ツァ]「ツォ」[ツォ]「ツ」[ツ]
- 「ツイエ」[ツイエ]「ツイア」[ツイア]「ツイオ」[ツイオ]「ツイウ」[ツイウ]「ツイェ」[ツイェ]「ツイア」[ツイア]「ツイオ」[ツイオ]「ツイウ」[ツイウ]
- P.120 「座敷」[座敷]「混雑」[混雑]「涼しい」[涼しい]
- 「スイ」[スイ]「セ」[セ]「ソ」[ソ]「ス」[ス]
- 「スイエ」[スイエ]「スイア」[スイア]「スイオ」[スイオ]「スイウ」[スイウ]
- P.121 「ズイ」[ズイ]「ゼ」[ゼ]「ザ」[ザ]「ゾ」[ゾ]「ズ」[ズ]
- 「ズイエ」[ズイエ]「ズイア」[ズイア]「ズイオ」[ズイオ]「ズイウ」[ズイウ]
- 「リ」[リ]「レ」[レ]「ロ」[ロ]「ル」[ル]
- 「リエ」[リエ]「リャ」[リャ]「リョ」[リョ]「リュ」[リュ]
- P.123 「ネ」[ネ]「ノ」[ノ]「ヌ」[ヌ]
- P.124 「チ」[チ]「チェ」[チェ]「チャ」[チャ]「チョ」[チョ]「チュ」[チュ]
- 「チエ」[チエ]「チア」[チア]「チオ」[チオ]「チウ」[チウ]
- 「チエ」[チエ]「チャ」[チャ]「チョ」[チョ]「チユ」[チユ]
- 「実験」[実験]「患者」[患者]「ジェット」[ジェット]
- 「真珠」[真珠]「柔道」[柔道]「ミンジョン」[ミンジョン]
- P.125 「シ」[シ]「シェ」[シェ]「シャ」[シャ]「ショ」[ショ]「シュ」[シュ]
- 「ジ」[ジ]「ジェ」[ジェ]「ジャ」[ジャ]「ジョ」[ジョ]「ジュ」[ジュ]
- 「しじみ」[しじみ]「市場」[市場]
- P.126 「ヒ」[ヒ]「ヒエ」[ヒエ]「ヒャ」[ヒャ]「ヒョ」[ヒョ]「ヒュ」[ヒュ]
- 「百」[百]「表」[表]「日向」[日向]
- P.127 「ニ」[ニ]「ニエ」[ニエ]「ニア」[ニア]「ニオ」[ニオ]「ニウ」[ニウ]
- P.128 「イェ」[イェ]「ヤ」[ヤ]「ヨ」[ヨ]「ユ」[ユ]
- P.129 「キ」[キ]「ケ」[ケ]「カ」[カ]「コ」[コ]「ク」[ク]
- 「キエ」[キエ]「キャ」[キャ]「キョ」[キョ]「キユ」[キユ]
- 「キヤ」[キヤ]「キョ」[キョ]「キユ」[キユ]
- 「キヤ」[キヤ]「キョ」[キョ]「キユ」[キユ]
- 「キ」[キ]「ケ」[ケ]「カ」[カ]「コ」[コ]「ク」[ク]
- 「キエ」[キエ]「キャ」[キャ]「キョ」[キョ]「キユ」[キユ]
- 「炭酸ガス」[炭酸ガス]「十五」[十五]「お天気」[お天気]
- 「ガラガラ」[ガラガラ]「オルガン」[オルガン]
- P.131 「十五夜」[十五夜]「七五三」[七五三]「大学」[大学]「大学校」[大学校]「高等学校」[高等学校]
- 「大ガラス」[大ガラス]「大鳥」[大鳥]「黄ガミ」[黄ガミ]「黄組」[黄組]
- P.132 「鏡」[鏡]「過ごす」[過ごす]「パン」[パン]「ホン」[ホン]「オンイン」[オンイン]
- 「サンパン」[サンパン]「サンダン」[サンダン]「サンガイ」[サンガイ]「サン」[サン]

- P.133 「枯れ枝」[枯れ枝]「カレー」[カレー]「だ」[だ]「小鬼」[小鬼]「高二」[高二]「買った」[買った]
- P.134 「ハ」[ハ]「ヘ」[ヘ]「ホ」[ホ]「ご飯」[ご飯]「ご返事」[ご返事]
- P.136 図3-15 「エイッ!」における声門破裂音

■第四章 日本語のアクセント

1. 分類基準

- P.137 図4-1A 「朝」と「麻」
- 図4-1B 「朝」と「麻」

2. アクセントの種類

- P.143 「端」[端]「鼻」[鼻]「花」[花]「端」[端]「橋」[橋]
- P.146 「ネズミ」[ネズミ]「トモダチ」[トモダチ]「タマゴヤキ」[タマゴヤキ]「ムラサキイロ」[ムラサキイロ]
- 「リューコーサー」[リューコーサー]「ノーセギズイマクエン」[ノーセギズイマクエン]

3. アクセントの機能

- P.148 図4-6 「箸」[箸]「橋」[橋]「端」[端]のアクセント
- P.151 「二羽鳥がいる」[二羽鳥がいる]「鶏がいる」[鶏がいる]
- 「二羽鶏がいる」[二羽鶏がいる]「庭には鳥がいる」[庭には鳥がいる]
- 「庭には鶏がいる」[庭には鶏がいる]「庭には二羽鳥がいる」[庭には二羽鳥がいる]
- 「庭には二羽鶏がいる」[庭には二羽鶏がいる]「二羽庭には鶏がいる」[二羽庭には鶏がいる]

4. 記述法

- P.152 表4-1 東京アクセントの型一覧表
- P.157 「エノグ」[エノグ]「アカイエノグ」[アカイエノグ]「アオイエノグ」[アオイエノグ]
- 「コノアカイエノグ」[コノアカイエノグ]「コノアオイエノグ」[コノアオイエノグ]
- 「トケタアカイエノグ」[トケタアカイエノグ]「トケタアオイエノグ」[トケタアオイエノグ]
- 「ワタシガモラッタコノアカイエノグ」[ワタシガモラッタコノアカイエノグ]
- 「ワタシガモラッタコノアオイエノグ」[ワタシガモラッタコノアオイエノグ]
- P.158 「ワタシガモラッタ」[ワタシガモラッタ]「コノアカイエノグ」[コノアカイエノグ]
- 「ワタシガ」[ワタシガ]「モラッタ」[モラッタ]「コノ」[コノ]「アカイエノグ」[アカイエノグ]
- 「ワタシガ」[ワタシガ]「モラッタ」[モラッタ]「コノ」[コノ]「アカ」[アカ]「イエノグ」[イエノグ]
- P.159 図4-7 アニエフデ
- P.163 火 木 日 気 豹 缶 表 勘
- 著 肩 花 型 鼻 竹 20 自身 砂糖 五人
- P.164 二重 自信
- 監事 センス 漢字 扇子 道具 ゆうべ
- 千人 安産 専任 暗算 仙人 方言
- 東 木 の 実 干菓子 熱い 男 絡み ネ
- ズミ この実
- レスラー キャラバン 白米 無器用 履
- くまい めめしい
- 横町 ガリ版
- 素人 狩人
- P.165 山茶花 仲人 弟 妹 茶だんす べランダ
- アカンベエ トビーさん 魔法ビン 異邦人
- 日本人 ディナーショウ 赤ん坊 社交性
- 本屋さん コースター 大所帯 等時間
- ローズティー そうらしい
- 開化井 インシュリン
- 蝙蝠 千曲 雰囲気 選挙区 用足し 道
- 楽 ワープロ 選曲
- 東大寺 ハンティング 誕生日 展覧車
- 三番目 ズーミング 寛大さ 抽象画
- 93 安藤さん 運動会 コンピューター
- 騒々しい EEC ばんそうこう 東京堂

●Windowsの動作環境●

- システム : 日本語Windows95、WindowsNT4.0 (日本語Windows98は動作確認済み)
- 対応機種 : PC/AT互換機
- CPU : Pentium 120MHz以上 (Pentium 166MHz以上推奨)
- メモリー : 32MB以上
- CD-ROM : 4倍速以上 (8倍速以上推奨)
- その他 : 256色以上表示可能なディスプレイ / Sound Blaster互換サウンドカード

Windows95、Windows98、WindowsNTは米国Microsoft社の登録商標です。PentiumはIntel社の登録商標です。Made with Mcromediaは米国Mcromedia社の登録商標です。ATAMAPはキッセイコムテック社の登録商標です。MULTI-SPEECH 3700はKAY社の登録商標です。

定価：本体40,000円+税
AC3001

